

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和八年二月句会（第一六五回）

兼題 「日脚伸ぶ」

令和八年二月二十八日

開催場所 流山生涯学習センター

出席者 六名

投句者・選句者 七名

【七点句】

●日脚伸ぶまだともうとの振り子かな

柳花

春を待ち望んでいる人の気持ち、日脚の伸びる様に託して詠んだ句である。

未だ日脚が伸びず、昼間時間が少ない。

いや結構伸びたと一喜一憂する心の振れをまるで振り子のようにだと表現したのが秀逸である。

選評 徹心

【四点句】

●待ち侘びし雨にほころぶ木瓜の花

夢心

この句は調べも映像も引つかかることなく素直に入ってきてます。「待ち侘びし」を上五に置いたことで木瓜にとどまらず人々を含めた動植物みんなの気持ち、また、「雨」で乾いた景色に彩りが戻りました。

「ほころぶ」に花へのあたたかい眼差しを感じます。自然をねじ伏せるのではなく謙虚に優しく向き合う姿勢が句全体から伺え、素敵な句だと思います。また、「雨」で乾いた景色に彩りが戻りました。

選評 柳花

【四点句】

●非毛氈渡る回廊春の宮

互酬

兼題の「日脚伸ぶ」は当然のことながら自然の情景を詠むことが多くあります。その中でこの句はどこか王朝絵巻の一幕を彷彿とさせてくれます。

緋毛氈、回廊、春の宮と続く流れが心地良く響きます。

端正な句に惹かれました。

選評 小牧

【三点句】

触れもせぬ医者の方や春寒し
園庭の子らのスキップ日脚伸ぶ

玄鳥
小牧

【二点句】

ふわ掬う軽き眩き六花かな
万祝（まいわじ）の晴れ着纏いし春の梅

柳花
互酬

【一点句】

寝たきりの介護ベッドや日脚伸ぶ
日脚伸び妻の顔（かんばせ）柔らかに
鳥遊ぶ流れひとすじ日脚伸ぶ
立春や小さき願い持ち続け
春の苑紅香る文を手
電話より自動音声返る
小魚を手掴み遊ぶぬるむ堀
春日和AIのニュースひとり聞き
寒紅やふさぎ虫の特効薬
淡雪や衆院選の長き列

玄鳥
徹心
小牧
小牧
小牧
玄鳥
玄鳥
小牧
柳花
玄鳥

【投句】

日脚伸び好きな連ドラ見過ごして
日脚伸ぶ房総の町花に酔う
重ね着の肌（はだか）に牛久の風つぶて
つくしんぼ顔見てにっこり土手む
日脚伸ぶ連呼して過く選挙カー
バス仕立て観梅茶屋の湯の香
日脚伸び急ぎ立てられず外作業
成田山横綱二人豆を撒く
日脚伸び気分もどこか伸びやかに
布団干し日脚の伸び実感す
スノボーやキラキラネーム読み難し

柳寛
互酬
柳花
夢心
夢心
夢心
夢心
夢心
夢心
夢心
夢心

「句会後記」

今回の兼題を歳時記で見ると、一年で一番日が短い冬至を過ぎると徐々に長くなっていくが、日々の小さな変化は気づきにくく、一ヶ月も過ぎるとそれと気づき、春の訪れを感じるようになるというのである。

今回の「日脚伸ぶ」は実体のない、時間の流れの中で感得する類のもので中々難しく、作句するのに手古摺った。そんな中で、評点が一旬に集中し七点句というのが出て来て大変目覚ましいことであった。

雑詠句では、降雪、衆院選、AIなどの今日の出来事がリアルタイムで詠まれていて、会員の作句に対する姿勢が伺われる。

「ふわ掬う」とか「風つぶて」などあまり耳に馴染みのない言葉が出てきて、それらもやがて市民権を得るようになるかも知れないと思うと楽しい。今回は、玄鳥氏が欠席で6人での句会であった。

夢心（森川）